

専門学校 久留米リハビリテーション学院 授業評価

—平成 23 年度の結果—

本学院では、授業の質の向上を念頭におき、「学生の授業満足度の把握と教員の研鑽」を目的として、専任教員の担当科目を対象に平成 18 年度より授業評価を開始、平成 20 年度より本格的にアンケート結果の分析を進めてきた。これを実施することにより、各教員が担当している科目の授業内容を振り返り、次期あるいは次年度に活用することで授業の質の向上を目指した。しかし、授業アンケートを進めていく中で、このアンケート結果を個々教員の授業改善だけでなく全教員がある一定の教授力を持てるように活用することで教育の質の担保ができないかと考え、平成 23 年度に授業アンケートのリニューアルを実施した。

今回は、その動向をお伝えし久留米リハビリテーション学院の授業における教員の取り組みや学生の満足度を広く公開することとした。

【学生による授業評価】

1. 評価項目

授業評価項目は、授業に関する一般事項と本学院の特徴である e-school に関する事項とした平成 22 年度までの授業アンケートと同様の項目を大項目とした。細項目については、一部の文言を修正、各大項目における項目数の見直しを行った。大項目および細項目については、以下に示す。

(1) 教員の授業の進め方

- ① 授業担当者は、授業の目標や内容を明確に示していた。
- ② 授業担当者は、指定された教科書あるいは参考書の活用方法を提示していた。
- ③ 講義時間と実技実習時間の配分は適切だった。(該当科目のみ)
- ④ 授業担当者は、効果的に学生の参加（発言等）を促した。
- ⑤ 授業担当者は、学習に対する適切な助言を与えてくれた。

(2) 教員の伝え方

- ① 板書および配布資料などは、効果的であった。
- ② 授業担当者の話し方は、聞き取りやすかった。
- ③ 授業担当者の説明は、分かりやすかった。
- ④ 実習や国家試験に活かせる知識、技術を習得することができた。

(3) 教員の関わり方

- ① 授業担当者の授業に対する熱意を感じた。
- ② 授業担当者は、学生の迷惑行為（私語）を注意し、適切な授業環境を保つことに努めた。
- ③ 授業担当者は、学生の質問や相談に対し適切な助言を与えてくれた。

(4) パソコンや教材の活用

- ① 授業担当者は、パソコンのスライドやメディアなどを効果的に活用していた。
- ② 自分は、この授業の学習（授業・自己学習）においてパソコンを効果的に活用できた。
- ③ 指定された教科書や参考書は学習内容を理解するのに役立った。

(5) 学生の授業へのモチベーション

- ① 授業を受けて、学習意欲が高まった。
- ② 自分は、この授業に意欲的に取り組んだ。
- ③ 総合的にみて、この授業は満足できるものであった。

2. 評価の方法および集計方法

平成 22 年度までの授業アンケートにおいては、上記の評価項目に対し「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「強くそう思わない」の 4 つの選択肢のうち該当するもの一つを選択してもらい、どの選択肢にも該当しない項目については「無回答」とした。しかし、平成 23 年度より、選択肢を「強くそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「強くそう思わない」の 5 つの選択肢に変更した。また、「無回答」は、回答対象者のうちアンケート実施日に欠席した学生数とした。また、感想・意見・希望などについては、前回のアンケートより変更せず自由に記載してもらった。

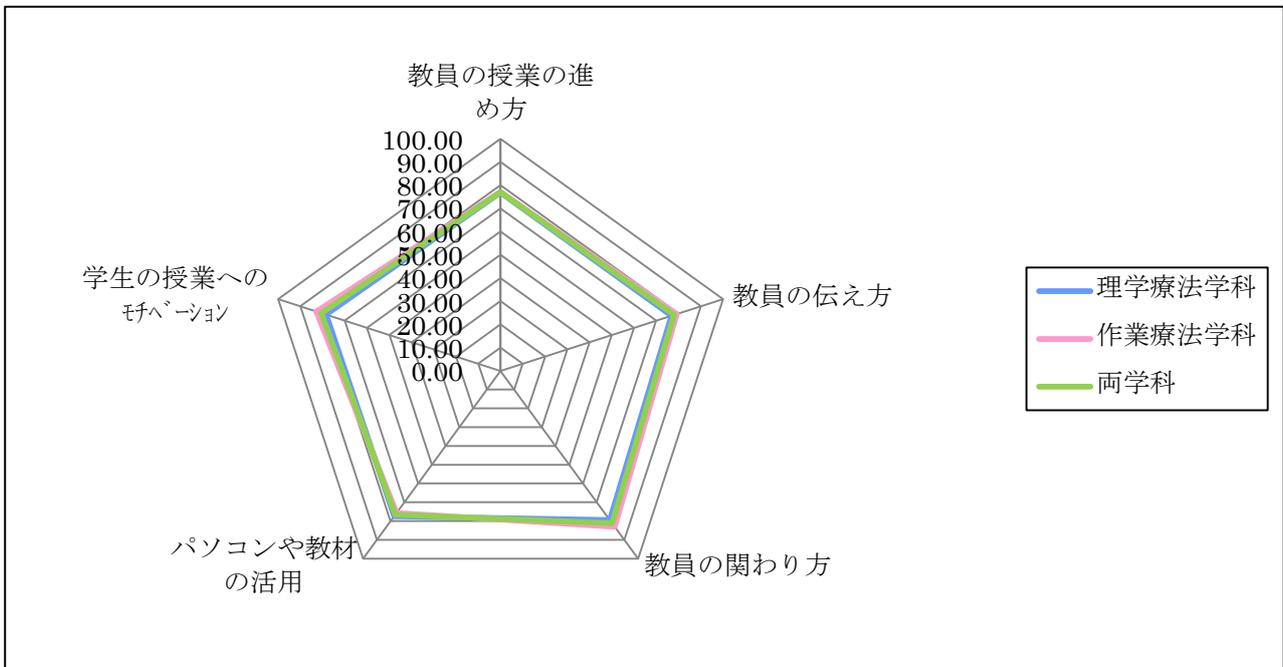
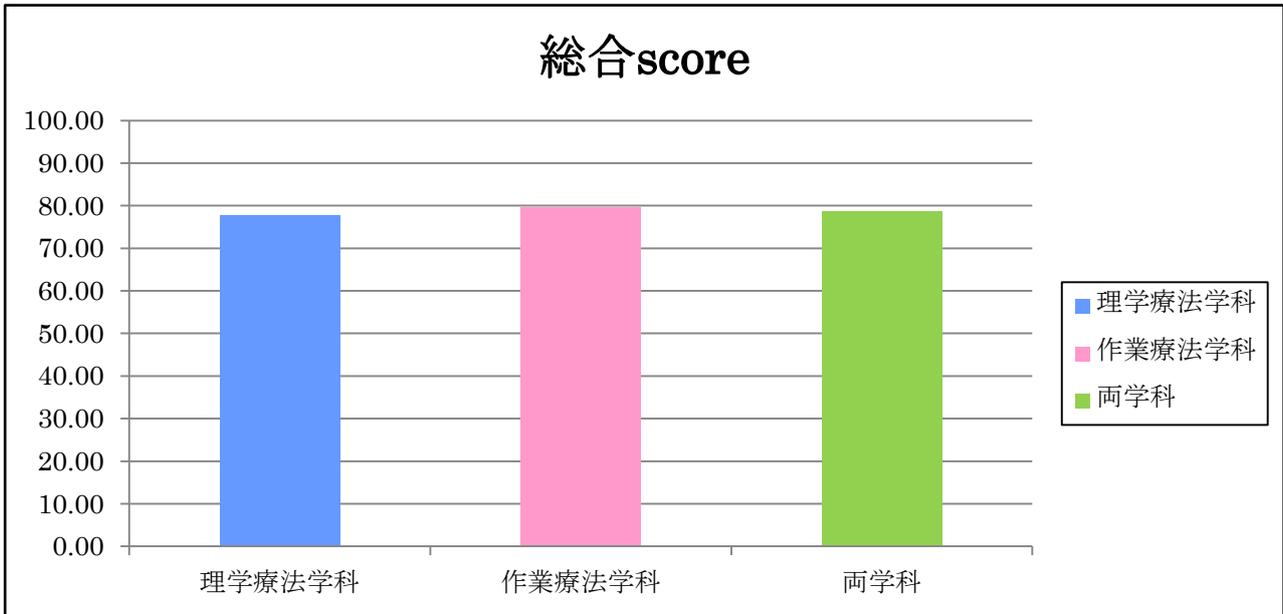
集計方法については、各選択肢を以下のように点数化し、各項目についてすべてが「強くそう思う」だった場合を満点として 100 点満点換算し、その割合を大項目ごとにグラフ化した。

「強くそう思う」	: 5 点
「そう思う」	: 4 点
「どちらとも言えない」	: 3 点
「そう思わない」	: 2 点
「強くそう思わない」	: 1 点
「無回答」	: 0 点

3. 結果

集計結果については、以下のような結果となった。

	理学療法学科	作業療法学科	両学科
教員の授業の進め方	76.90	77.04	76.97
教員の伝え方	76.94	79.25	78.10
教員の関わり方	79.41	83.06	81.24
パソコンや教材の活用	77.38	75.73	76.56
学生の授業へのモチベーション	78.40	82.72	80.56
総合 score	77.81	79.56	78.69



(学生による自由記載欄のコメント)

科目	代表的なコメント
運動学Ⅱ (OT)	説明がとても分かりやすかったです。分からないところは時間をかけて分かるまで説明してくれたのでとても良かったです。パソコンと教科書をみながら一年の復習ができたのでとてもよかったです。
基礎作業学演習Ⅱ (OT)	1つの動作について色々な目線から評価して今までとは違う見かたができるようになりました。普段の動きを分析するくせがついた。
作業療法概論Ⅱ (OT)	作業は楽しく、その後に必ず意味があるという説明のある授業の流れがとてもよかったです。学生の意見を聞いてもらえたり、分からないことを理解できるまで教えて頂いた。
日常生活活動 (OT)	疾患の基礎から学んだので、何のためにこのような介助が必要なのか考えながら勉強することが出来ました。

応用作業学 (OT)	レクリエーションを考える時の視点などを実践的に学ぶことができたし、実施しながら観察する事とその視点が分かった。
生物 (PT・OT)	授業に対して熱心に教えて下さり、とても生物という難しい教科を分かりやすく教えて下さり楽しくできました。
基礎運動学 I (PT・OT)	筋の走行や歩行の説明を体を使って分かりやすく説明して下さいだったので、とても分かりやすかったです。
リハビリテーション概論 (PT・OT)	自分の気持ちや学習に対する思いを考え直す良い授業でした。今やるべきことを真剣に教えてくれたりして、本当に学習意欲を高めてもらえました。
物理療法 (PT)	物理療法の細かな部分まで学ぶことができた。また、禁忌・適応に関しては、これからの臨床の場で必要となるので、しっかり復習をして知識を身につけたいと思う。
理学療法評価学 II (PT)	とても分かりやすく理解しやすく、分からない点も丁寧に説明して頂いたので学ぶ意欲がわいた。
神経障害理学療法学 II (PT)	生理学などを復習することで勉強できました。動画などが多く良いと思いました。
理学療法概論 II (PT)	理学療法士になった時にどんなことが大事なのかなどをしっかり学べたのでよかった。

4. 分析と今後の課題

近年、臨床現場で働く理学療法士・作業療法士より、実習生について「指示待ちである」、「積極的に学習しようとする姿勢がみられない」など、受身の学習となっているという声を多く聞くようになった。しかし、我々理学療法士や作業療法士は、社会の受容に応じて臨機応変に対応すべく、専門職として日々自己研鑽し、一生涯学び続けることが必要である。今回、授業アンケートのリニューアルに伴い、以前に比べ学生の満足度がより明確にアンケート結果へ反映されるようになった。これより、各教員の教授力や項目ごとの教員の強み、課題も明確化できるようになったと考える。今後、この授業評価結果を教員全体で共有し、より質の高いレベルの授業を、いずれの教員でも同等に提供できるよう研鑽を図りたいと考える。また、授業や学内での学生との関わりを通して、学生自身も自己研鑽のできる理学療法士・作業療法士へと育てていきたいと考える。